

「はい、北島建設でございます」

「私、高橋と申します。雑誌の求人を見てお電話をさせていただいたのですが、人事担当の笠間さんはいらっしゃいますか？」

「笠間はただ今席を外しております。夕方五時頃には戻る予定ですが」

「そうですか。では、五時頃に改めてお電話いたします。失礼いたします」

五時になると、高橋は再び北島建設に電話を入れた。

「はい、北島建設でございます」

「私、本日午前中にお電話をいたしました高橋と申します。人事担当の笠間さんはお戻りでしょうか？」

「はい、少々お待ちください」

保留のメロディがしばらく流れ、

「お待ちいたしました。笠間です」

「私、高橋と申します。雑誌の求人を見てお電話させていただきましたが、まだ募集はしていらっしゃいますか？」

「はい、まだ募集しております。一般事務と経理事務、どちらをご希望ですか？」

「経理事務を希望しております」

「そうですか。では、最初に書類選考を行いますので、九月十五日までに履歴書をお送りください。書類選考で合格された場合には、後日こちらからご連絡いたします。不合格の場合には、履歴書はこちらで責任をもって処分させていただきますのでご了承ください」

「わかりました。それではすぐにお送りしますので、よろしくお願いいたします」
数日後、高橋の家に北島建設からの連絡が入った。

「はい、高橋です」

「こちら、北島建設人事部の笠間と申しますが、和実さんをお願いします」

「はい、私ですが・・・」

「先日、高橋さんの方から履歴書をお送りいただきまして、厳重な書類選考を行った結果、合格となりました。つきましては、後日面接試験を行いたいと思います。

当社の面接日程としては、来月九日と十日の二日間の予定です。その両日のいずれかであれば、高橋さんのご希望の日で構いませんが」

「そうですか。それでは九日にお願ひできますか？」

「わかりました。では九日に面接の予定を入れておきますので、当日は午前十時までに一階の会議室の方においでください。その日、面接試験を受ける人は高橋さんの他にも何人かいらっしゃいますので、面接の順番を待つ間、一般常識と作文の試験を行います」

「はい、わかりました。それから御社の場所なのですが、駅から歩いて五分とお聞きしているのですが、詳しい道順が分からないので教えていただきたいのですが」

高橋は、駅から会社までの道順を聞き、手帳にメモを取った。